

第6章

柏崎市第三次歯科保健計画

素案

1. 歯科保健計画の方向性

生涯を通じた歯・口腔の健康づくりの推進

市民の歯・口腔保健の現状としては、子ども達のむし歯は減少傾向にありますが、食習慣や歯みがき習慣などには課題が残っています。また、歯周病が進行する前の若年層に対して、生活習慣病予防と連携した歯周病予防の取組を継続していく必要があります。

少子高齢化が進む中、健康寿命の延伸は喫緊の課題となっています。今後、さらなる高齢化の進展が見込まれており、生涯にわたり歯・口腔の健康を維持することの重要性が、より一層高まります。健康寿命の延伸に向けて、自分の口から食べる喜びや、話す楽しみの基盤となる歯・口腔の機能を育成し、維持・向上することが重要です。

そのために、市民一人ひとりが自分の歯・口腔の状態に関心を持ち、乳幼児期から高齢期に至るまで、生涯を通じた切れ目なく持続した歯・口腔の健康づくりを目指します。

2. 取組の展開

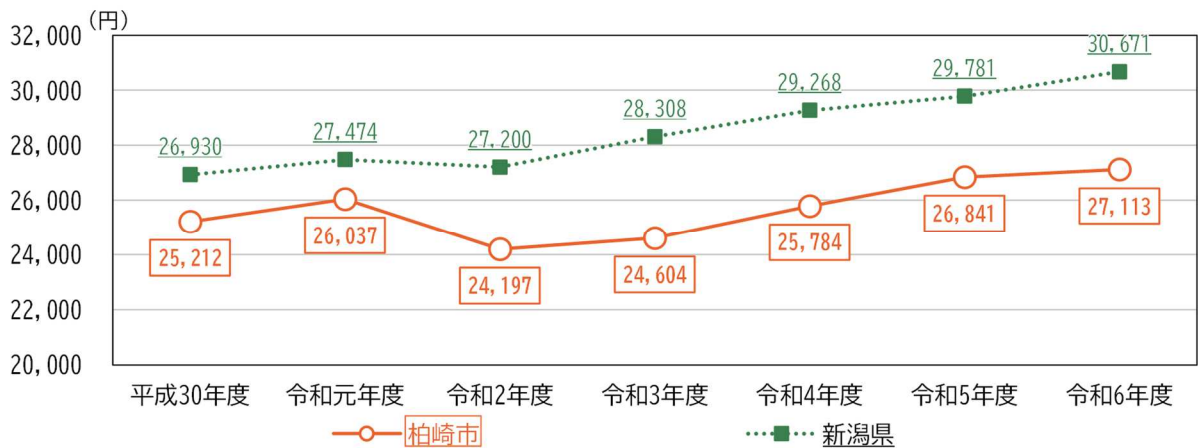
2-1 全てのライフステージ

(1) 現状と課題

☑ 市民全体で生涯を通じた歯・口腔の健康を保つことが重要

① 1人当たり歯科診療費の推移

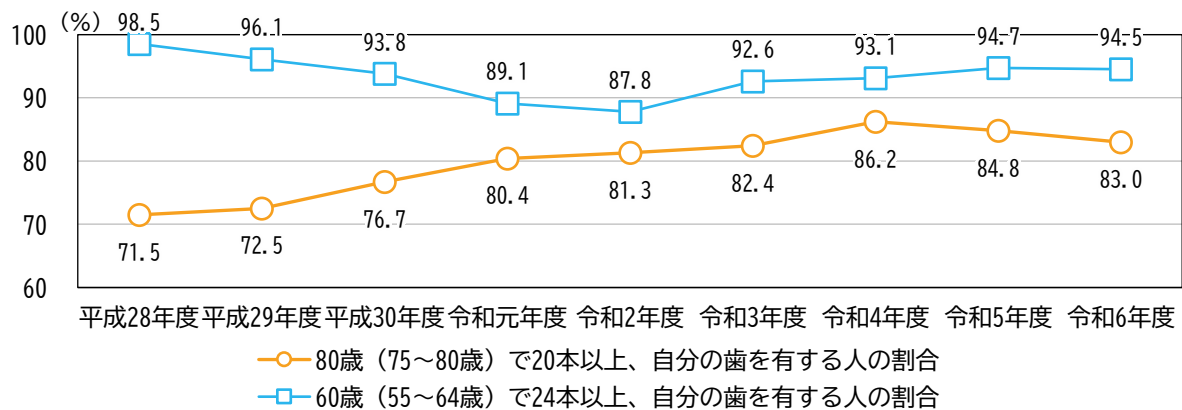
- ・ 1人当たり歯科診療費は、増加傾向にありますが、県よりも低くなっています。



資料：国保連合会提供疾病統計ツール

② 8020達成者・6024達成者の割合の推移

- ・ 8020「80歳（75～84歳）で20本以上、自分の歯を有する人」の割合、6024「60歳（55～64歳）で24本以上、自分の歯を有する人」の割合は、年度により多少の増減はありますが、いずれも増加傾向にあります。



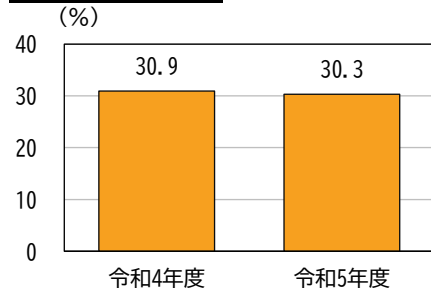
※8020は令和6年度は75～84歳

資料：柏崎市歯周病検診

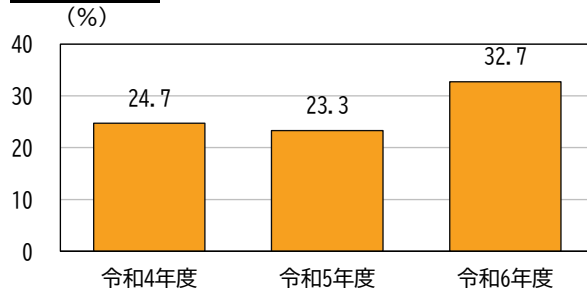
③ 妊婦の歯科健診受診率及び歯周病有病者率の推移

- ・妊婦の歯科健診受診率（柏崎市歯周病検診妊婦無料クーポン利用者割合）は約3割となっています。受診者の歯周病保有率は令和6（2024）年度には3割を超えています。

妊婦の歯科健診受診率



歯周病有病者率

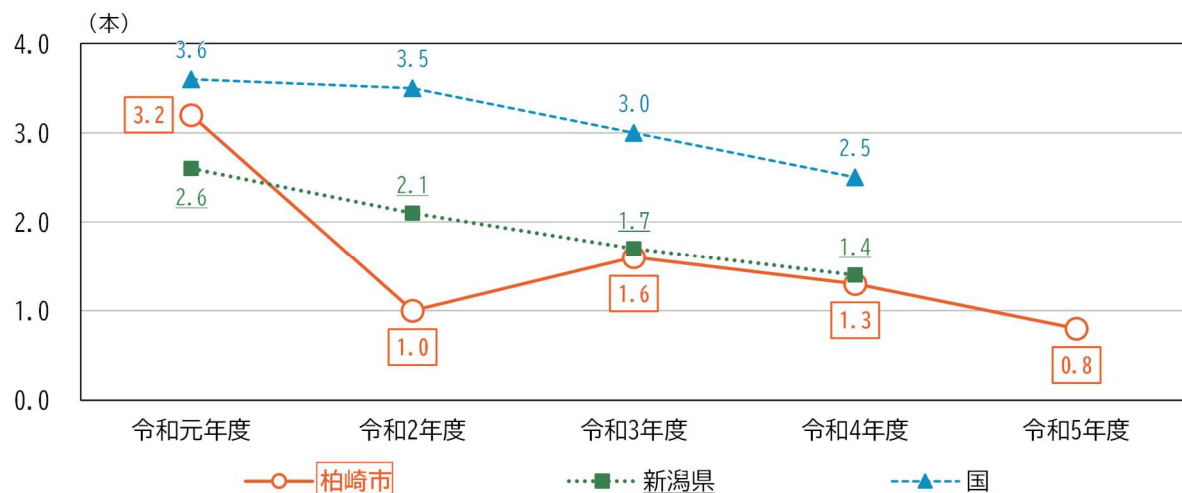


資料： 柏崎市歯周病検診

☑ 子どものむし歯予防の推進が重要

④ 3歳児で4本以上のむし歯がある人の割合の推移

- ・3歳児で4本以上のむし歯がある人の割合は減少傾向にあり、県や国より下回っています。

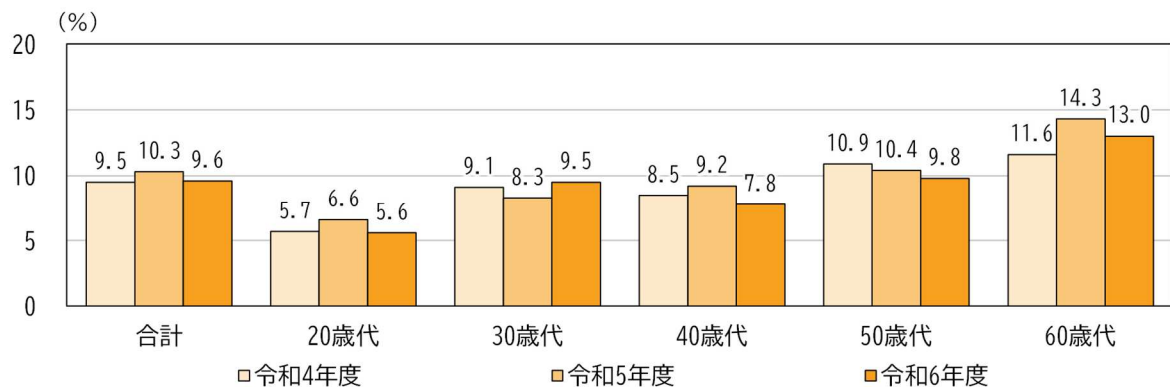


資料： 地域保健・健康増進事業報告（厚生労働省）

☑ 若い世代からのむし歯や歯周病の発症予防及び進行抑制が必要

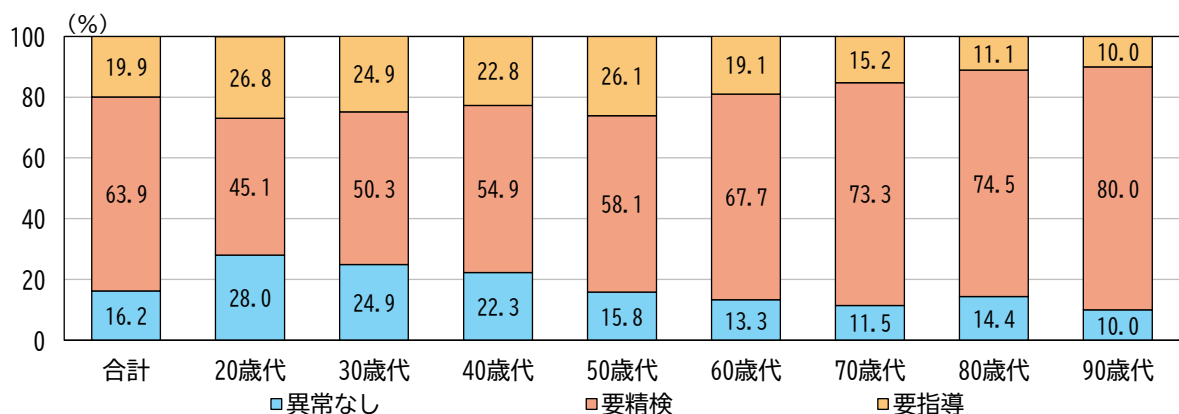
⑤ 年代別柏崎市歯周病検診無料クーポン利用者割合の推移

- ・ 柏崎市歯周病検診無料クーポンの利用者割合は、概ね年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあります。特に20歳代では5～6%台と、ほかの年代に比べて低くなっています。



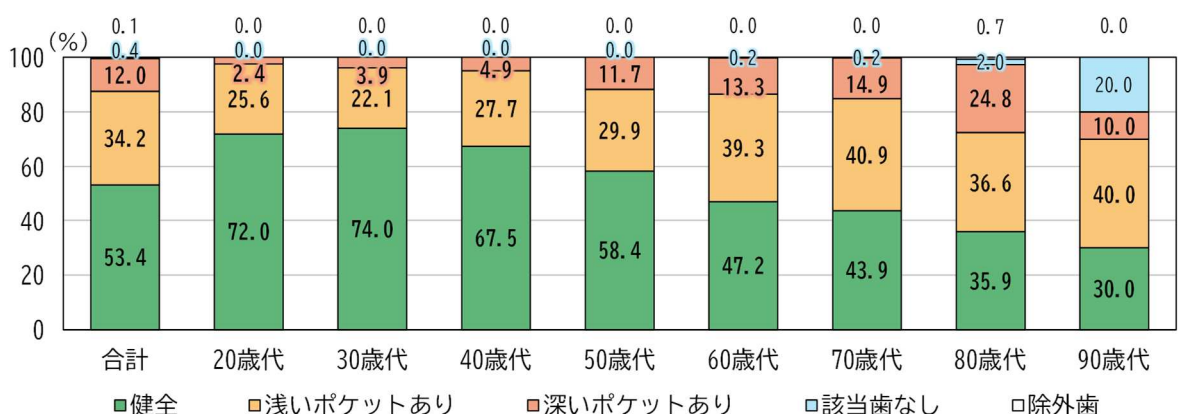
⑥ 柏崎市歯周病検診の年代別判定区分の状況（令和6（2024）年度）

- ・ 年代別判定区分では、年齢が上がるにつれて要精検の割合が増加していますが、若い世代でも要精検の人が約半数います。



⑦ 柏崎市歯周病検診における歯周ポケットの状況（令和6（2024）年度）

- ・ 若い世代でも約3割に歯周ポケットを持つ人がいます。





歯周ポケット

歯周ポケットとは、歯と歯茎の境目にある溝のことです。健康な状態では浅い溝ですが、歯周病が進行すると深くなり、歯周病菌が繁殖しやすくなるため注意が必要です。

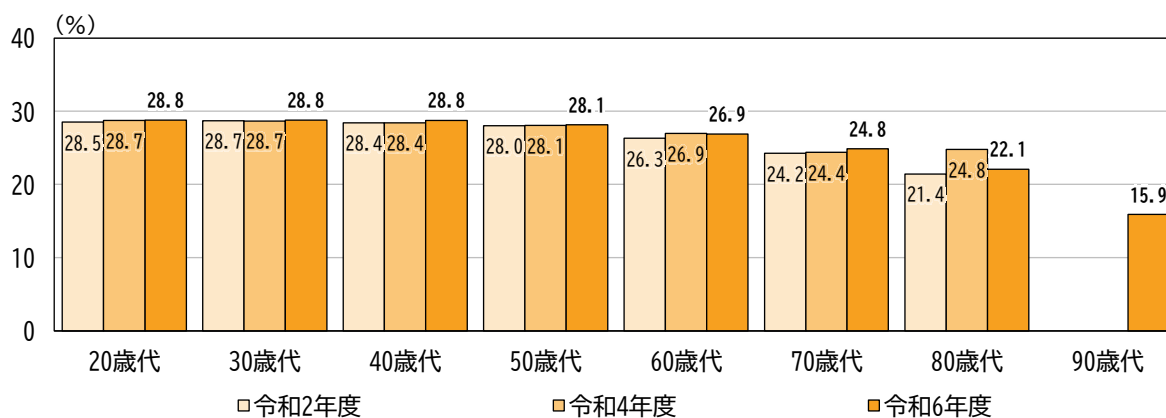
健康な状態：歯と歯茎はぴったりとくっついており、溝の深さは1～2mm程度です。

歯周病の進行：歯石・歯垢が溜まり、歯茎に炎症が起きると、歯茎が腫れて溝が深くなります。



⑧ 平均現在歯数の推移

- 平均現在歯数は50歳代以下では、28本台となっており、60歳代以上で年代が上がるにつれて本数が少なくなる傾向があります。



※80歳代は、令和5年以前は80歳のみ

資料：柏崎市歯周病検診

背景と課題

- 妊娠中はホルモンバランスの変化や生活習慣の変化により、むし歯や歯周病になりやすくなります。特に歯周病は、早産や低体重児出産のリスクを高めることが知られています。
- むし歯予防も歯周病予防も、全ての年代において、定期的な歯科健診が重要ですが、特に若い年代で歯科健診の受診率が低い傾向があります。
- 事業所や民間企業等と連携して、誰もが歯科検診を受けることができる環境づくりを進める必要があります。
- 通院が困難な障がいのある人や要介護者等は、口腔ケアが不十分になりやすいことから、施設等での歯科健診や口腔衛生管理等を実施する機会を増やしていく必要があります。

(2) 評価指標・目標

目標項目	現状値 R6	中間目標 R13	最終目標 R19	出典
妊婦の歯科健診受診率 (柏崎市歯周病検診妊婦無料クーポン利用者割合)	30.3% (R5)	増加	増加	柏崎市歯周病検診
歯科健診・歯みがき指導等、歯科保健に関する事業 を行っている障害福祉サービス事業所 (通所)の割合	43.8%	45%	50%	福祉課

(3) 行動目標／取組方針

行動目標



- ◇ かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受けよう
- ◇ 一人ひとりに合った適切な口腔ケアを実践しよう

■ 市民の取組 ■

全世代



- ・ 定期的に歯科健診を受けましょう。
- ・ かかりつけの歯科医を持ちましょう。
- ・ 毎食後、歯をみがきましょう。
- ・ フッ化物を利用しましょう。
- ・ ゆっくりよく噛んで食べましょう。
- ・ 本人や家族、介護者が口腔ケアをしましょう。
- ・ 災害への備えとして、歯ブラシ等を備蓄しておきましょう。

取組方針

- ◇ 生涯を通じて定期的な歯科健診が定着するよう、情報の提供や知識の普及啓発を行います。
- ◇ 歯みがき習慣や食習慣など、望ましい生活習慣に向けた意識を高め、実践できるように取組を推進します。

■ 柏崎市の取組 ■

- ・ ライフコースアプローチを踏まえた、歯・口腔の健康づくりを推進します。
- ・ かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受けることの重要性を広く周知します。
- ・ 妊婦歯科健診の機会について啓発し、受診を勧めます。
- ・ 健診等での指導を充実します。
- ・ 歯科医師会及び地域や関係機関の協力を得ながら、歯・口腔の健康に関する取組を広げます。
- ・ 歯科医師会及び地域や関係機関の協力を得ながら、障がいのある人や要介護者が歯科健診を受けやすい体制づくりをします。
- ・ 障害福祉サービス事業所や個人の口腔に関するニーズに、関係機関と連携して対応します。

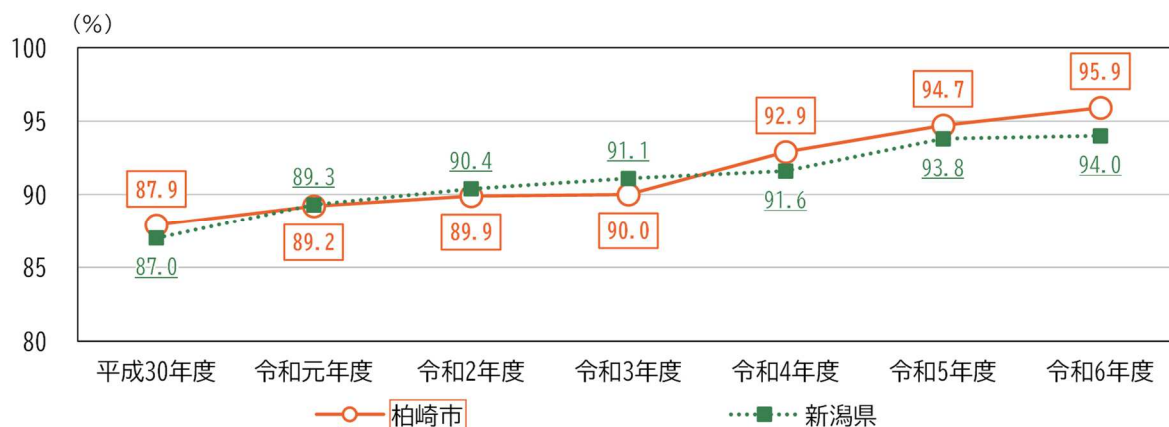
2-2 乳幼児期

(1) 現状と課題

☑ 親子でむし歯予防に取り組むことが必要

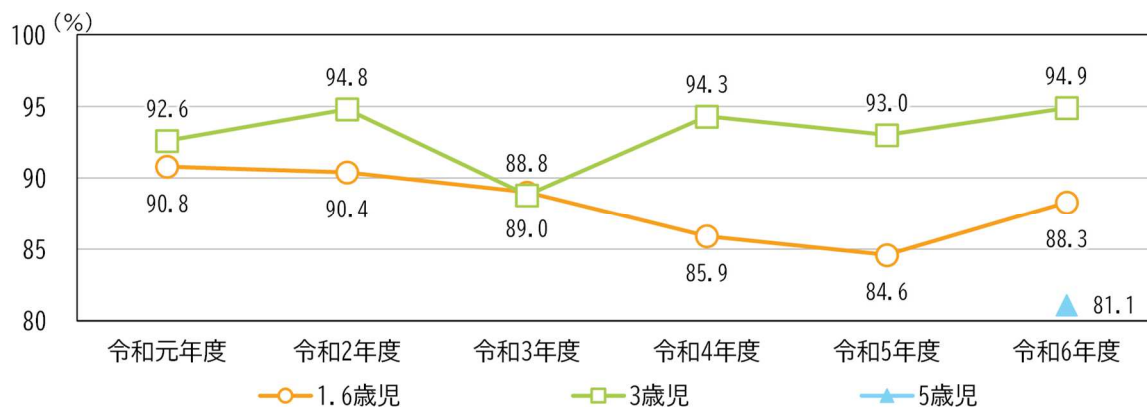
① 3歳児でむし歯がない人の割合の推移

・ 3歳児でむし歯がない人の割合は増加傾向にあります。また、県と同水準となっています。



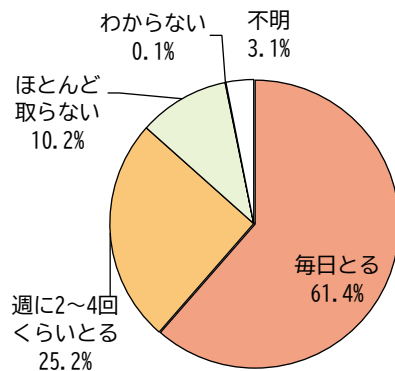
② 大人が毎日仕上げみがきをする人の割合の推移

・ 大人が毎日仕上げみがきをする割合は、3歳児では9割を超え、増加傾向にあります。1.6歳児や5歳児は80%台で、3歳児より仕上げみがきをする人の割合が低いです。



③ 週2回以上お菓子や甘い飲み物をとる人の割合

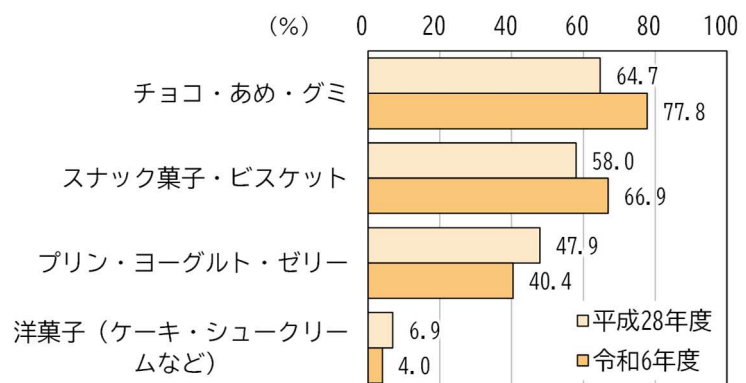
- ・週2回以上お菓子や甘い飲み物をとる人の割合は8割を超えており、頻回にとっている家庭が多くなっています。



資料：令和6(2024)年度4歳児いい歯・食育アンケート

④ 家庭でよく食べるおやつ

- ・子どもが家庭でよく食べるおやつとして、歯にくっつきやすいガムやグミ、口の中に長く入っているアメが増えています。



資料：令和6(2024)年度4歳児いい歯・食育アンケート

背景と課題

- ・むし歯予防対策のひとつとして実施しているフッ化物洗口は、対象となる全ての施設での実施に至っていない状況です。
- ・子どものむし歯は減少傾向にありますが、1人で複数本むし歯がある子などが一定数おり、おやつのととり方や歯みがきなどの生活習慣が身についていない子が見られます。

(2) 評価指標・目標

目標項目		現状値 R6	中間目標 R13	最終目標 R19	出典
3歳児で4本以上のむし歯がある人の割合		0.0%	0%	0%	母子保健事業報告
3歳児でむし歯のない人の割合		95.9%	維持	維持	歯科疾患の現状と 歯科保健対策
大人が毎日仕上げみがきをする人の割合	1.6歳児	88.3%	90%	92%	乳幼児健診問診票
	3歳児	94.9%	95%	95%	
	5歳児	81.1%	86%	90%	

(3) 行動目標／取組方針

行動目標



◇ 望ましい食習慣や生活リズム、歯みがき習慣を身に付けよう

■市民の取組■

妊娠期・
乳幼児期



- ・ 毎食後の歯みがきを習慣にしましょう。
- ・ 保護者が仕上げみがきをしましょう。
- ・ おやつの量や回数を決めて食べましょう。
- ・ 甘い飲み物はできるだけ控えましょう。
- ・ フッ化物歯面塗布でむし歯を予防しましょう。
- ・ ゆっくりよく噛んで食べる習慣を身に付けましょう。
- ・ かかりつけ歯科医を持ち、定期的に受診しましょう。

取組方針

◇ 望ましい食習慣や生活リズム、歯みがき習慣を家庭を基盤に身に付けられるよう関係機関と連携し支援します。

■ 柏崎市の取組 ■

- ・ 幼児期からの定期的な歯科健診を勧めます。
- ・ 乳幼児歯科健診で、仕上げみがきについて啓発します。
- ・ 幼稚園、保育園での歯科健康教室を継続して行います。
- ・ 乳幼児健診や歯科健康教室での指導の充実を図ります。
- ・ 生活習慣や食習慣と併せたむし歯予防についての知識を普及します。
- ・ バランスの取れた食生活やよく噛んで食べる習慣の定着に向け、食育と一体的な歯科保健の推進に努めます。
- ・ しっかり噛める口腔機能の獲得に向けた指導を行います。
- ・ 年齢に応じたフッ化物の利用によるむし歯予防対策を推進します。
- ・ 「毎月18日19日はいい歯・食育の日」を推進します。

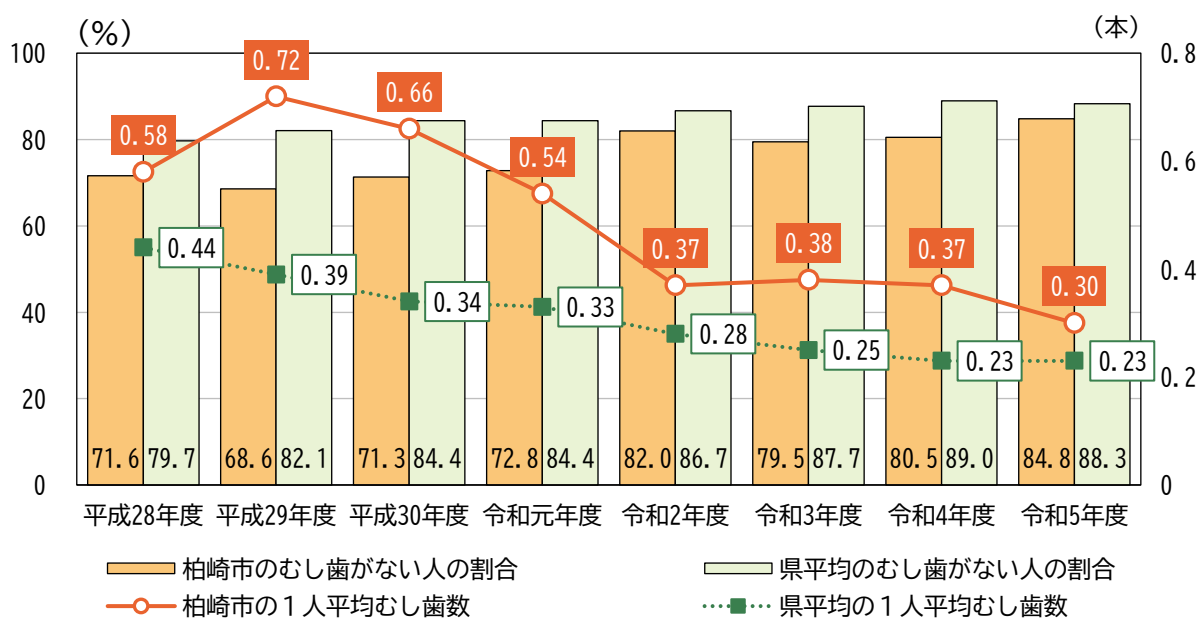
2-3 学童・思春期

(1) 現状と課題

☑ 歯みがき習慣の定着化や治療の必要性を知ることが必要

① 12歳児でむし歯がない人の割合・1人平均むし歯数の推移

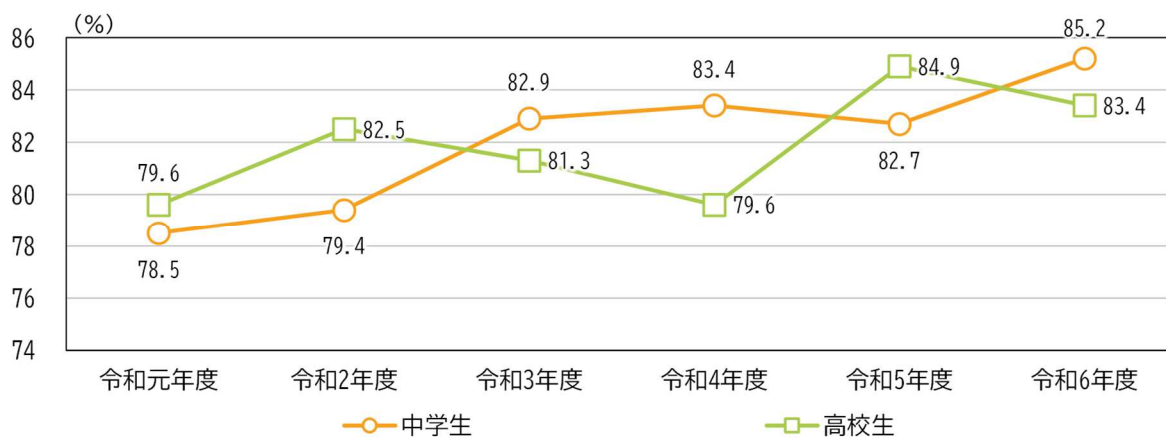
- ・フッ化物洗口の普及等により、むし歯がない人の割合は増加傾向にあります。
- ・1人平均むし歯数は減少傾向にあり、県の平均に近づいています。



資料：歯科疾患の現状と歯科保健対策

② 健康な歯肉を持つ人の割合の推移

- ・健康な歯肉を持つ人の割合は中学生、高校生ともに8割を超え、増加傾向にありますが、中には歯肉炎が進んでいる子もいます。

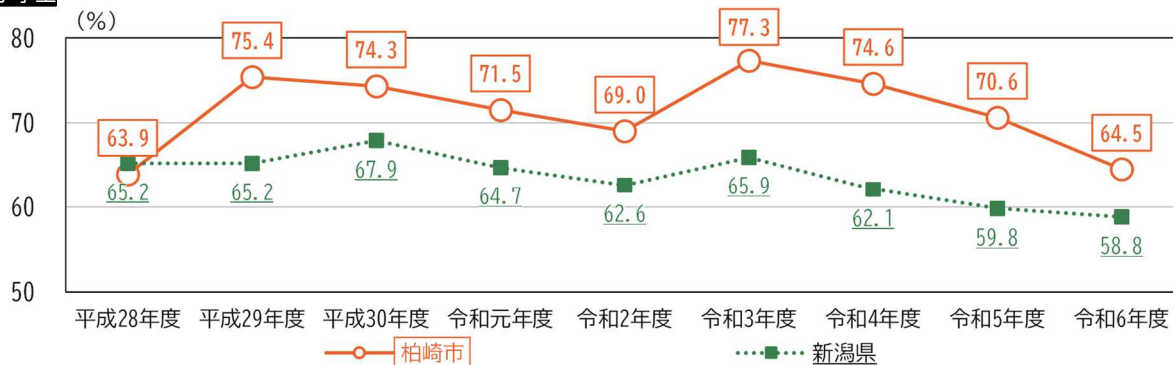


資料：健康診断結果集計表（教育委員会）

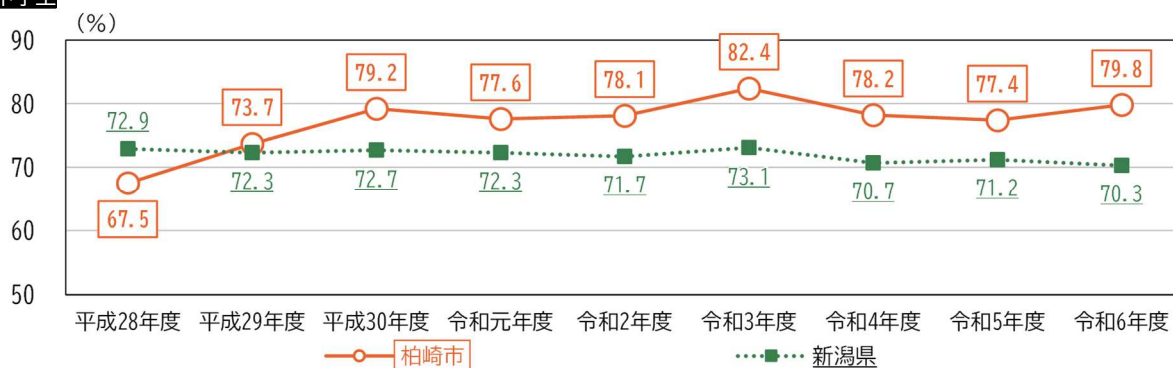
③ 治療済みのむし歯の割合（小学生・中学生）の推移

- ・小学生では、県の水準を上回っていますが、令和3（2021）年度以降減少傾向にあります。
- ・中学生では、7～8割台で推移しており、県水準を上回っています。

小学生



中学生

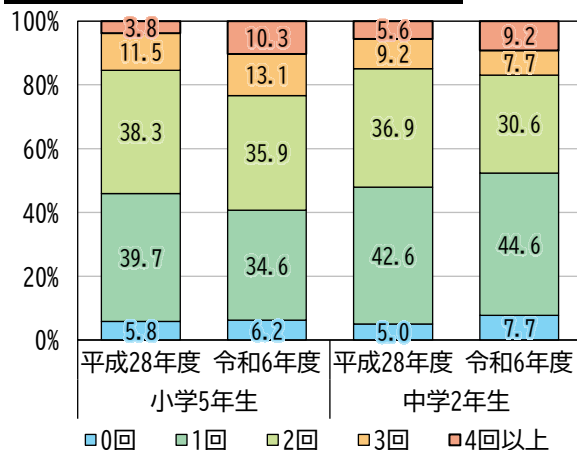


資料：柏崎市…健康診断結果集計表（教育委員会）
新潟県…歯科疾患の現状と歯科保健対策

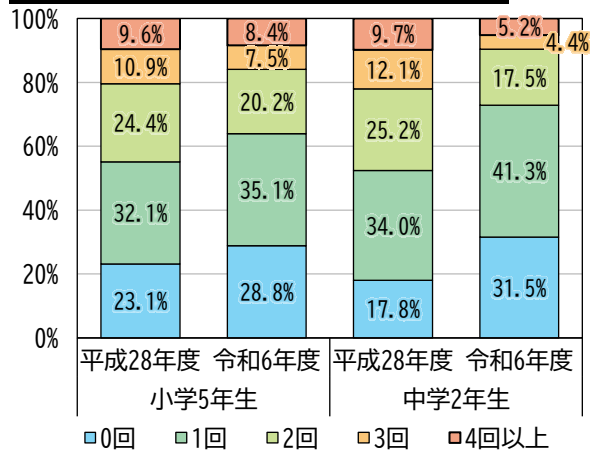
④ 休みの日に、おやつ・甘い飲料をとる人の割合の推移

- ・休みの日に1日3回以上お菓子を食べている人の割合は、小学5年生・中学2年生ともに増加しており、特に小学5年生では、4回以上食べる子が増加しています。
- ・休みの日に1日3回以上甘い飲み物を飲んでいる人の割合は、小学5年生・中学2年生ともに減少しています。

学校が休みの日に1日何回お菓子を食べているか



学校が休みの日に1日何回甘い飲み物を飲んでいるか



資料：令和6（2024）年度小・中学生いい歯・食育アンケート

背景と課題

- ・子どものむし歯は減少傾向にありますが、むし歯があっても治療を受けていない子が見られます。

(2) 評価指標・目標

目標項目		現状値 R 6	中間目標 R 13	最終目標 R 19	出典
12歳児でむし歯のない人の割合		89.7%	90%	95%	歯科疾患の現状と 歯科保健対策
健康な歯肉を持つ 人の割合	中学生	85.2%	86%	87%	健康診断結果集計表 (教育委員会)
	高校生	83.4%	84%	85%	
治療済みのむし歯の 割合	小学生	64.5%	70%	78%	健康診断結果集計表 (教育委員会)
	中学生	79.8%	81%	83%	

(3) 行動目標／取組方針

行動目標



◇自分の歯や口腔に関心を持ち、むし歯や歯周病を予防する方法を身に付けよう

■市民の取組■

学童・
思春期



- ・ 小学校中学年までは保護者が仕上げみがきをしましょう。
- ・ 毎食後の歯みがきを習慣にしましょう。
- ・ おやつや甘味飲料を控えましょう。
- ・ 三食しっかりよく噛んで食べましょう。
- ・ 歯の大切さを理解し、自分の歯や歯ぐきの状態に関心を持ちましょう。
- ・ かかりつけ歯科医を持ち、定期的に受診しましょう。

取組方針

- ◇ 歯・口腔の健康の大切さを認識し、自己管理する力を高めることができるよう取組を推進します。
- ◇ 歯みがきの大切さについて、周知します。

■ 柏崎市の取組 ■

- ・ 定期的な歯科健診を勧めます。
- ・ 定期歯科健診の必要性を保護者や子ども達へ啓発します。
- ・ 小学校・中学校での歯科健康教育を継続して実施します。
- ・ 小学校・中学校へ歯科保健教材を継続して配布します。
- ・ ゆっくりよく噛んで食べることや口腔機能の発達について指導します。
- ・ 健康教育を通じて、喫煙が歯・口腔の健康に及ぼす影響について啓発します。
- ・ 継続的にフッ化物洗口を実施します。
- ・ 「毎月18日19日はいい歯・食育の日」を推進します。
- ・ バランスの取れた食生活やよく噛んで食べる習慣の定着に向け、食育と一体的な歯科保健の推進に努めます。

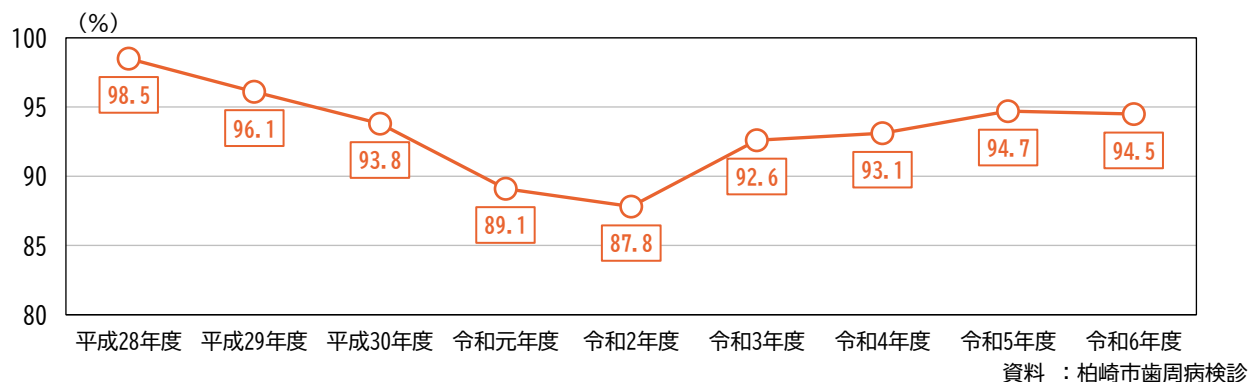
2-4 青年期・壮年期

(1) 現状と課題

☑ 歯科疾患を発症する若い世代から歯・口腔の健康を意識することが重要

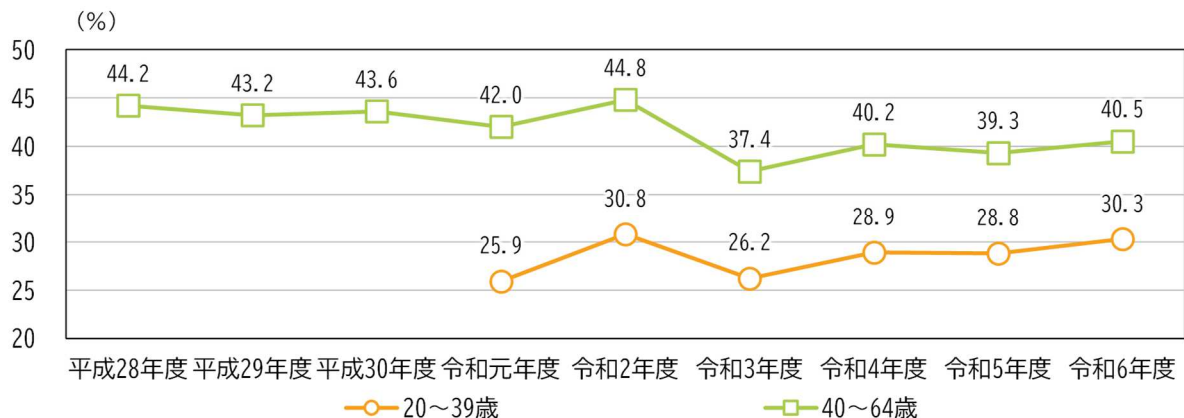
① 60歳で24本以上、自分の歯を持つ人の割合の推移

- ・ 令和2（2020）年度以降増加傾向にあり、90％台で推移しています。また、県の水準よりも高くなっています。



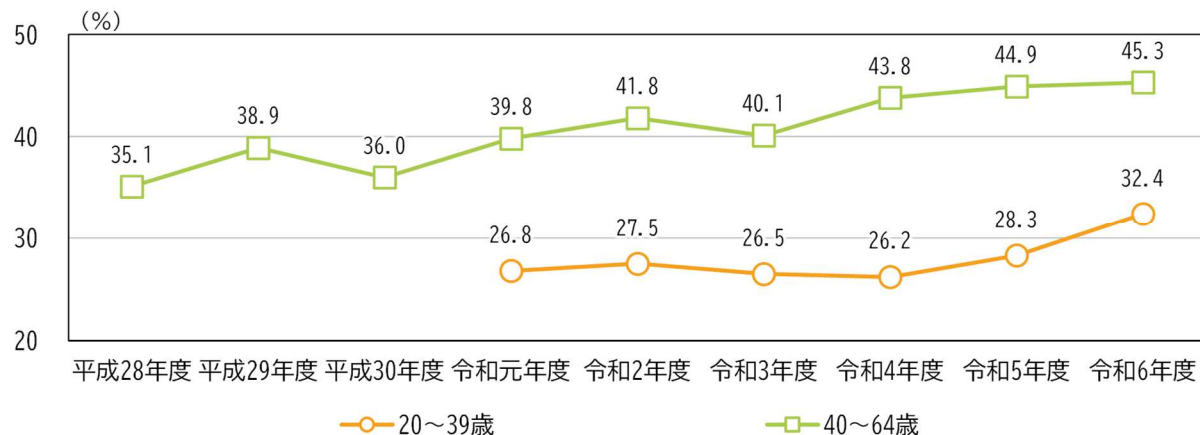
② 過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合（20～64歳）の推移

- ・ 過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合は、コロナ禍の影響もあり、令和3（2021）年に減少し、その後横ばいとなっています。20～39歳は令和4（2022）年度以降20％台で推移し、40～64歳の30～40％台に比べて低くなっています。



③ 歯ブラシ以外に歯間ブラシやデンタルフロスを使っている人の割合の推移

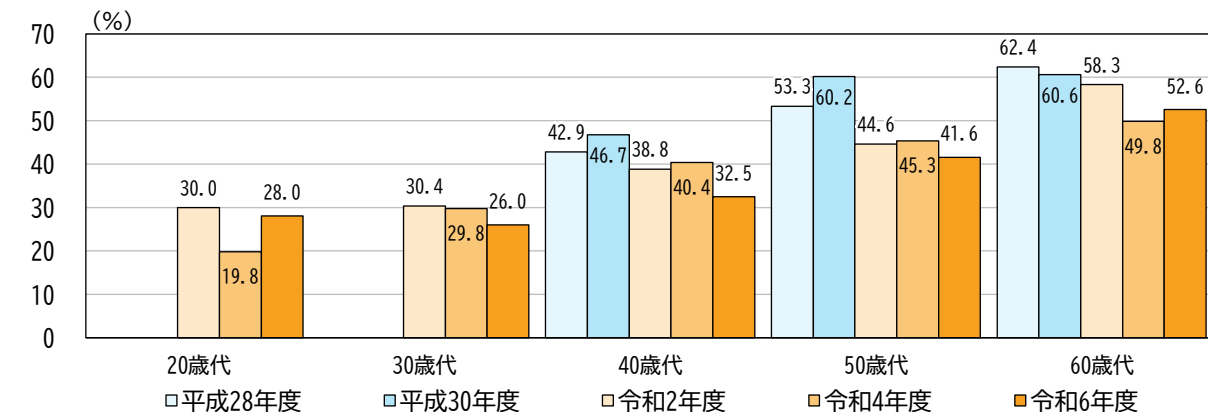
- ・ 歯ブラシ以外に歯間ブラシやデンタルフロスを使っている人の割合は、令和3（2021）年度以降は概ね増加傾向にあります。しかし、20～39歳は40～64歳に比べて低くなっています。



資料： 柏崎市歯周病検診

④ 歯周炎を有する人の割合の推移

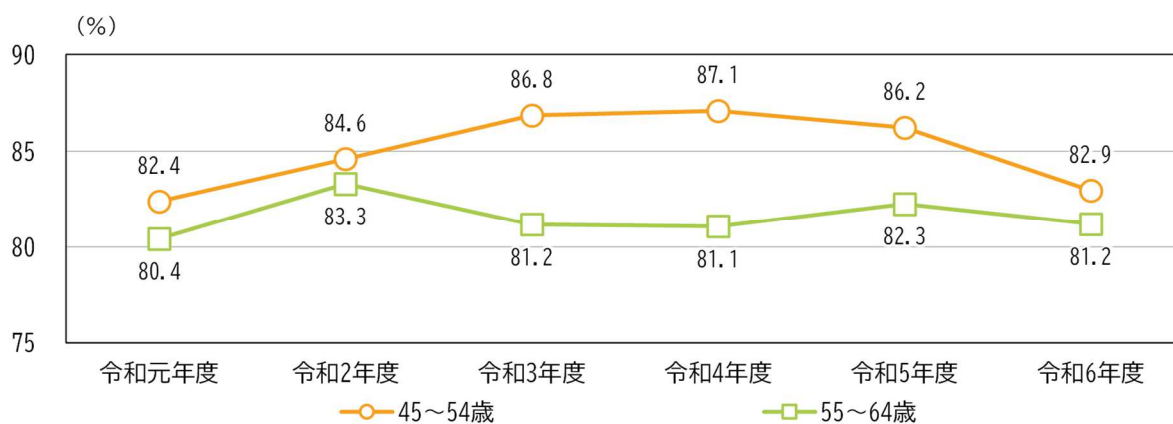
- ・ 歯周炎を有する人の割合は、以前より減少傾向にありますが、20歳代・30歳代の若い世代でも2割を超えており、年代が上がるにつれて増加する傾向があります。
- ・ 40歳代以上では、令和6（2024）年度では平成28（2016）年度に比べて減少傾向にあります。



資料： 柏崎市歯周病検診

⑤ 咀嚼良好者の割合の推移

- 咀嚼良好者の割合はいずれの年代も8割台で推移していますが、45～54歳では直近では減少傾向にあります。



※何でも噛むことができると回答した割合

資料：特定健康診査質問表

背景と課題

- 歯周病は歯を失う原因となることから予防が大切ですが、若い世代では歯周病に関する意識が低くなっています。柏崎市歯周病検診の結果では、20歳代30歳代でも歯周ポケットを持っている人がいます。

(2) 評価指標・目標

目標項目		現状値 R 6	中間目標 R 13	最終目標 R 19	出典
60歳で24本以上自分の歯を持つ人の割合(55～64歳)		94.5%	95%	95%	柏崎市歯周病検診
過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合(20～64歳)		38.0%	48%	60%	柏崎市歯周病検診
歯ブラシ以外に歯間ブラシまたはデンタルフロスを使っている人の割合	20～39歳	32.4%	48%	60%	柏崎市歯周病検診
	40～64歳	45.3%	52%	60%	
40代における歯周炎を有する人の割合		32.5%	28%	25%	柏崎市歯周病検診
60歳における咀嚼良好者の割合(55～64歳)		81.2%	86%	90%	特定健康診査質問表

(3) 分野ごとの行動目標／取組方針

行動目標



◇ かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診とセルフケアのチェックを受けよう

■市民の取組■

成人期
壮年期



- ・ 自分に合った歯間部清掃用具（歯間ブラシ・デンタルフロス）を使い、時間をかけて丁寧にみがきましょう。
- ・ 自分や家族の健康に配慮した食生活を実践しましょう。
- ・ 歯周病が全身の健康に影響することを理解しましょう。
- ・ たばこと歯周病の関連を理解し、禁煙しましょう。
- ・ かかりつけ歯科医を持ち、定期的に受診しましょう。

取組方針

◇ 歯科疾患予防の普及と啓発、定期的な歯科健診の受診に向けて取り組みます。

■柏崎市の取組■

- ・ 柏崎市歯周病検診をより多くの方から受診していただけるようPRします。
- ・ 定期歯科健診の重要性を啓発し、かかりつけ歯科医を持ち、家族で受診することを勧めます。
- ・ イベント等で歯・口腔の健康に対する興味や関心を高め、口腔と全身の健康やオーラルフレイル（口の機能が衰えた状態）予防について周知啓発を図ります。
- ・ 生活習慣と関連して、よく噛むことや歯周病の知識・予防方法を啓発します。
- ・ 喫煙が口腔と全身の健康に及ぼす影響についての知識を啓発します。
- ・ 職域の保健関係者や働く人に対し、歯・口腔の健康について情報提供を行います。
- ・ 母子保健事業を通じて、保護者や妊産婦へ歯・口腔の健康について伝えます。

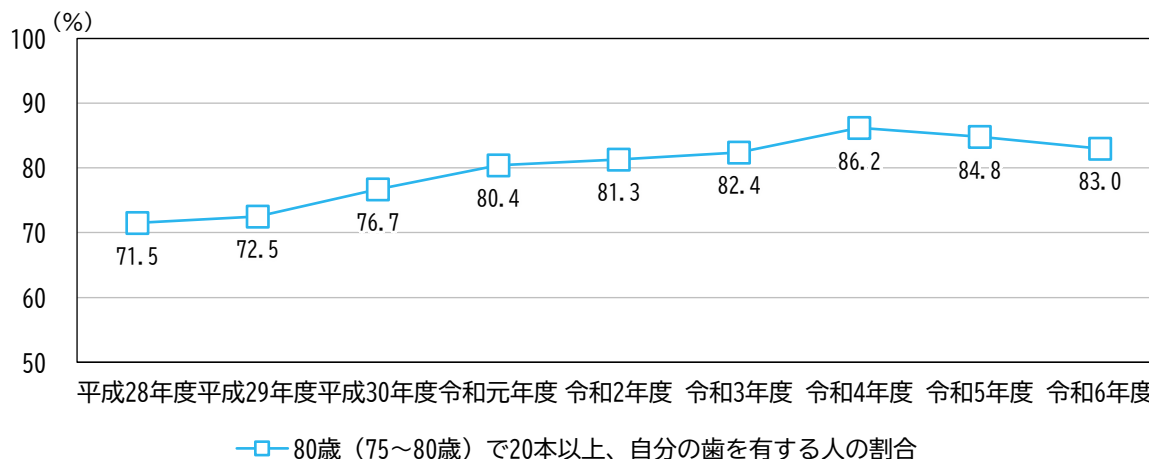
2-5 高齢期

(1) 現状と課題

☑ 1本でも多く自分の歯を維持できるようにする必要がある

① 8020「80歳（75～84歳）で20本以上、自分の歯を有する人」の割合の推移

- ・ 8020「80歳（75～84歳）で20本以上、自分の歯を有する人」の割合は、増加傾向にあり、令和6（2024）年度には8割台となっています。

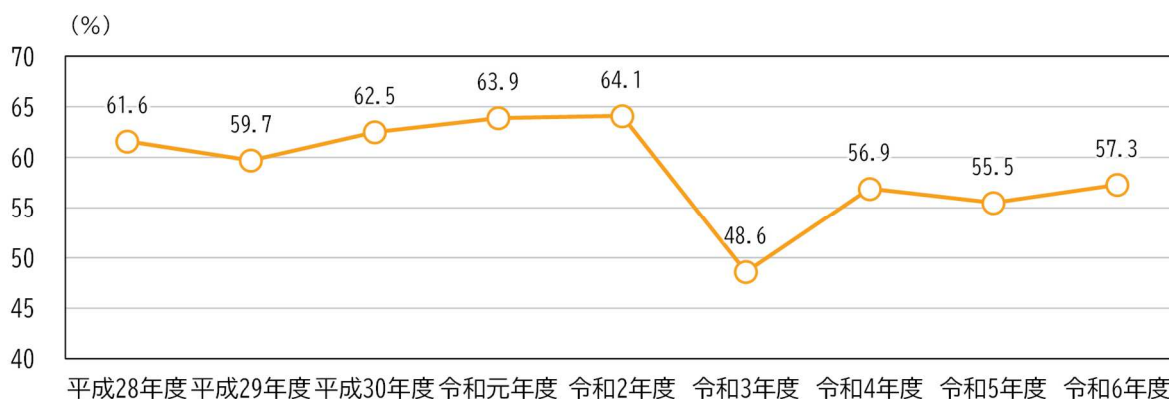


※8020はR6は75～84歳

資料：柏崎市歯周病検診

② 過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合（65歳以上）の推移

- ・ 過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合は、コロナ禍の影響もあり、令和3（2021）年度以降は、令和2（2020）年度以前の水準を下回って推移しています。

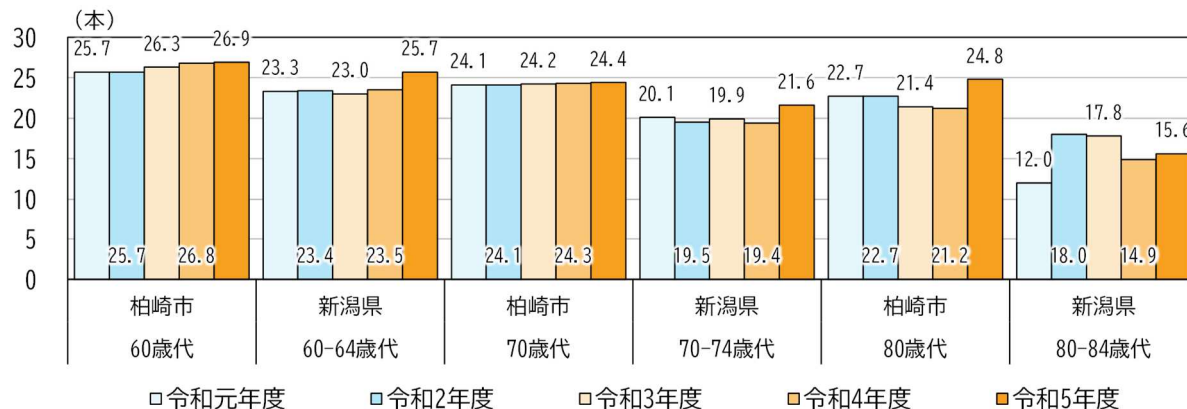


※R5まで65～80歳、R6は65～84歳

資料：柏崎市歯周病検診

③ 1人平均現在歯数の推移

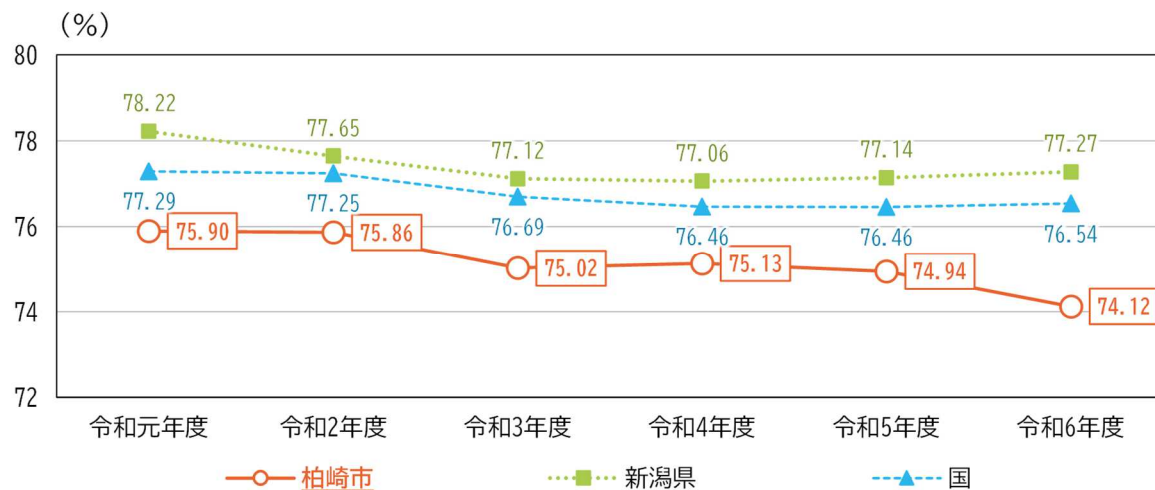
・1人平均現在歯数は各年代ともに、県に比べて本数が多くなっています。



資料：柏崎市…柏崎市歯周病検診
新潟県…県民健康・栄養実態調査

④ 咀嚼良好者の割合（65～74歳）の推移

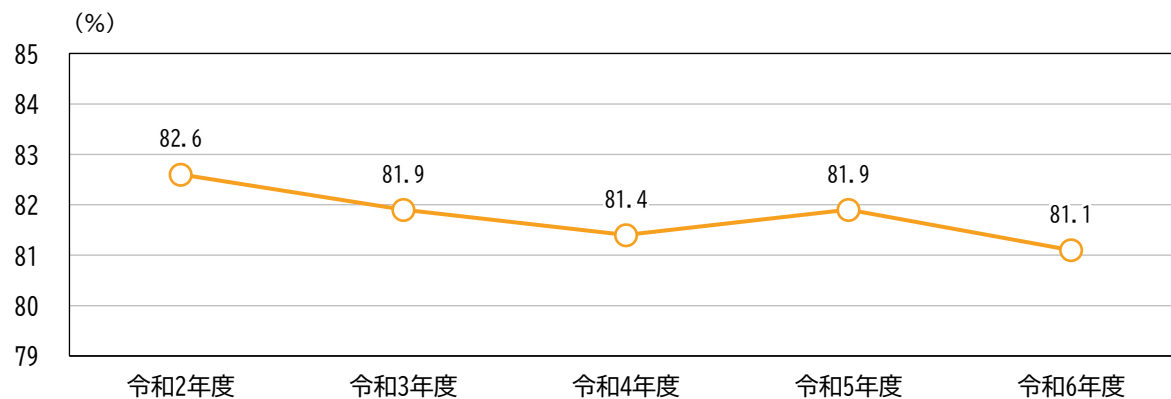
・65～74歳では7割台で微減傾向となっています。また、国・県の水準をやや下回っています。



資料：特定健康診査質問表

⑤ 嚥下良好者の割合（75～84歳）の推移

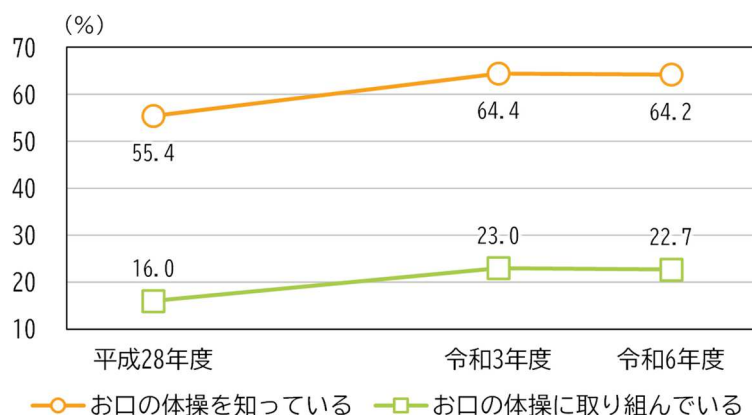
・75～84歳における嚥下良好者の割合はほぼ横ばいで8割台で推移しています。



資料：高齢者健診質問表

⑥ お口の体操を知っている人の割合の推移

- ・ お口の体操を知っている人の割合は平成28（2016）年度から増加しており、実際に取り組んでいる人の割合も増加しています。



資料： 柏崎市歯周病検診

背景と課題

- ・ 高齢期では歯の本数を維持することに加え、誤嚥性肺炎予防やオーラルフレイル予防のため、口腔機能を維持することも重要となっています。

(2) 評価指標・目標

目標項目	現状値	中間目標	最終目標	出典
	R 6	R 13	R 19	
80歳で20本以上自分の歯を持つ人の割合（75～84歳）	83.0%	84%	85%	柏崎市歯周病検診
過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合（65～84歳）	57.3%	56%	60%	柏崎市歯周病検診
70歳における咀嚼良好者の割合（65～74歳）	74.1%	77%	80%	特定健康診査質問表
80歳における嚥下良好者の割合（75～84歳）	81.1%	84%	88%	高齢者健診質問表

(3) 分野ごとの行動目標／取組方針

行動目標



◇ いつも清潔な口腔で食事をおいしく味わい、会話を楽しもう

■市民の取組■

高齢期



- ・ 自分に合った歯間部清掃用具（歯間ブラシ・デンタルフロス）を使いましょう。
- ・ 入れ歯は毎日洗いましょう。
- ・ かかりつけ歯科医を持ち、定期的に受診しましょう。
- ・ 歯や口の健康が誤嚥性肺炎の予防や全身の健康に関係していることを知りましょう。
- ・ ゆっくりよく嚥んで食べることが認知症の予防につながることを知りましょう。
- ・ お口の体操で、オーラルフレイルを予防し、口腔機能の低下を防ぎましょう。
- ・ 家族ができる簡単な口腔ケアを実践しましょう。

取組方針

◇ 定期的な歯科健診と口腔機能の向上の重要性の普及・啓発を図ります。

■ 柏崎市の取組 ■

- ・ 定期歯科健診の重要性を啓発し、家族で受診することを勧めます。
- ・ 口腔ケアの重要性や必要性、簡単な方法について情報提供します。
- ・ 全身の健康や認知症、介護予防と併せて、歯・口腔の健康について啓発します。
- ・ 関係機関と連携して、災害時の口腔ケア対策に取り組みます。
- ・ お口の体操を啓発します。
- ・ 喫煙が口腔と全身の健康に及ぼす影響についての知識を啓発します。
- ・ オーラルフレイルに関する知識を普及し、予防の取組を促進します。
- ・ 口腔機能の維持向上のため、多職種が連携して取り組みます。